

令和7年3月11日

No. 243

日立理科クラブ通信



日立理科クラブ

理数アカデミー 合同修了式 3月9日(日)



2024年度理数アカデミー合同修了式を3月9日に実施しました。

本年度の総受講生は81名で、それぞれ理科クラス66名、算数・数学クラス41名、自由研究コース12名で重複受講を含めて延べ120名になります。東京大学「UTokyoGSC-Next 萌芽コース」と連携し、日立市内及び近隣の市町村の受講生やオンラインで参加する全国の受講生とともに、活発な授業や自由研究が進められてきました。さらに、企業や先端研究施設の見学、大学での特別授業もあり、受講生にとって貴重な体験になったのではないかと思います。

＊折笠教育長ご挨拶：日立市出身の芥川賞作家 松永K三蔵さんの中学時代の紹介をされました。

松永さんが、小説家になりたいと思ったのは、中学時代に読んだドストエフスキーの作品がきっかけで、14歳で心に決めて30年後に芥川賞を受賞、その夢を実現させました。

皆さんにも、是非、将来の夢に向かって挑戦を続けてほしい。理数アカデミーで学んだことをもとに、科学の面白さの探求や、興味を持ったことの研究を続けていってほしい。皆さんのさらなる成長を期待しています。

＊日立理科クラブ瀧澤代表理事挨拶：

皆さんが自ら考え、自ら実行したこの一年には価値がある。仲間とともにさらに探求してほしい。ここでの経験は必ず将来の糧となる。自信をもって世界に羽ばたいてほしい。

＊受講生代表(日立市立中学校のMさん)挨拶：

Mさんは、すべてのコースに参加し、自由研究では「日立市の地層」の研究を進めてきました。

小学校1年生の時の「なぜ空は青いの？」の疑問からはじまり、現在の「サツマイモの甘さ」の研究まで、疑問が私を科学の世界に連れてきてくれました。身近な疑問を記した「謎のノート」を片手に理科室の先生のところに通ったのがきっかけで理数アカデミーに参加しました。

理科クラスの工夫された実験は、学校では経験できないもので、難解な問題は、仲間と一緒に考えることで、身近で面白いものに形を変えました。数学クラスでは、方程式やグラフなどの理屈ではなく、体験から得られる知識に感動しました。東京大学の講師の方のジグソー法での学習は、仲間と意見交換することで難しい問題を解いていくことが楽しく、大きな達成感を感じました。

先生方はもちろん仲間にも恵まれ、その皆さんに心から感謝しています。



各コースの代表講師から、一年間の活動について報告があり、それぞれの受講生の代表に修了証が授与されました。

理数アカデミーには、学校や学習塾等では得られない貴重な学びがあったと思います。その学びが受講生の皆さんの、確かな力となり、成長の糧となることを願っています。

また小学6年、中学1年の受講生には次年度も参加されることを期待しています。